

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	公衆衛生学
担当者	近藤 繁生
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院

授業概要と目的

公衆衛生の概念と歴史を学び、保健活動を理解するとともに、健康社会実現に向け、今後の保健・医療・福祉の健康にかかわる現代の課題に目を向け、より良い未来を切り開いていくための基礎的知識を学ぶとともに看護師国家試験過去問で傾向と対策を考える。

8

回 (コマ)	9	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	14	健康と予防の概念について学ぶ。	保健活動における予防の概念を理解する。	近藤 繁生
看護学	18			
2	20	自然環境要因と健康について学ぶ。	環境要因が健康に及ぼす影響を理解する。	
4	22	わが国の主要感染症について学ぶ。	感染症対策と予防について理解する。	
5	24	母子保健・学校保健について学ぶ。	乳児から児童までの保健対策を理解する。	
7	26	高齢者保健・精神保健を学ぶ。	介護保険制度とともに保健活動を理解する。	
8	後期	1)科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験			
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 3学年
科目名	社会福祉
担当者	葛谷 桂司
単位数(時間数)	1単位 15時間
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院

授業概要と目的

社会福祉および社会保障の意義・制度・役割を学び、保健・医療・福祉の連携について理解する。健康や障がいの状態に応じた生活支援に役立つ社会資源の種類と内容について学ぶ。

回 (コマ)	9	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	14	社会保障制度の概念を理解する。	社会保障制度の種類を挙げることができる。 社会福祉法の種類、支援の種類を挙げることができる。福祉六法の内容を説明できる。	葛谷 桂司
2	24	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を理解する。	動向のうち①少子高齢化の現状と将来の問題を説明できる。②人口問題を説明できる。③社会保障制度・福祉制度に与える影響を説明できる。 医療福祉分野の動向とサービス提供について説明ができる。	
3	後期	保障の種類と目的① 医療保険制度の内容を理解する。	医療保険の目的、種類、加入の要件を説明できる。 特定保健指導の内容を説明できる。 高齢者医療の目的、内容を説明できる。	
4	後期	保障の種類と目的② 介護保険の内容を理解する。高齢者福祉の目的、内容を理解する。	①介護保険法の目的を説明できる。 ②保険サービス利用の対象者、認定の流れ、利用者負担を説明できる。 ③サービス提供の種類を挙げることができる。 ④サービス提供の種類の内容を説明できる。 ⑤高齢者福祉の目的を説明できる。	
5	後期	保障の種類と目的③ 年金制度の内容を理解する。 雇用保険、労働者災害補償保険の内容を理解する。	①年金制度の目的を説明できる。 ②年金の種類を挙げることができる ③年金の加入要件を説明できる。 ①雇用保険制度の目的を説明できる。 ②雇用保険の加入要件を説明できる。 ③雇用保険給付の要件、種類を挙げることができる。 ④労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤労働者災害の種類を挙げることができる。 ⑥社会復帰促進事業の目的、内容を挙げることができる	

6	後期	保障の種類と目的④ 生活保護制度、生活困窮者支援制度を理解する。	①生活保護法の目的を説明できる。 ②生活保護の原理、原則を挙げるができる。 ③扶助の種類を挙げ、内容を説明できる。 ④生活困窮者支援法の目的を説明できる。 ⑤生活困窮者支援の内容を挙げるができる。 ⑥災害救助法の目的を説明できる。 ⑦日本赤十字社の役割を説明できる。	葛谷桂司
7	後期	社会福祉の分野とサービスの内容を理解する。	(1) 児童福祉 ①児童憲章の内容を説明できる。 ②児童福祉法の目的、内容を説明できる。 ③障害児の支援について説明できる。 ④子供の貧困について考察ができる。 ⑤ひとり親家庭の支援について説明できる。 (2) 障害者福祉 ①障害者福祉の目的を説明できる。 ②障害者手帳の取得の流れを説明できる。 ③障害者総合支援法の目的、サービス提供の流れ、実施機関、提供サービスの内容を説明できる。	
8	後期	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験		
準備学習など		テキストを読んで準備してください。講義当日に配布する資料はテキストの内容を補い、国家試験対策の参考として活用してください。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	医療関係法規
担当者	小林 茂浩
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院

授業概要と目的

人口の急速な高齢化と著しい出生率の低下により、疾病構造の変化とともに、医療、介護、年金など我が国の社会保障制度の変革が急速に進んでいることの意味、的確に対応するために、新法の制定や法令の改正について学び、看護との関係について理解できるための基礎的知識を養う。

8

回 (コマ)	9	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者	
1	14	<u>法の概念</u> 法の概念とその目的	法の概念と目的を説明できる。	小林 茂浩	
看護学	18				
2	20	<u>看護関係法令(1)</u> 保健師助産師看護師法①	看護師の役割、責務等を法令を通して説明できる。		
4	22	<u>看護関係法令(3)</u> 看護師等の人材確保の促進に関する法律①	看護師等の人材確保の促進に関する法律を説明できる。		
5	24	<u>看護関係法令(4)</u> 看護師等の人材確保の促進に関する法律②	看護師等の人材確保の促進に関する法律を説明できる。		
7	26	<u>医事法(2)</u> 医事法の仕組み②	医事法の仕組みが説明できる。		
8	前期	<u>保健衛生法・環境衛生法(1)</u> 保健衛生法・環境衛生法の仕組み①	保健衛生法・環境衛生法の仕組みが説明できる。		
9	前期	<u>保健衛生法・環境衛生法(2)</u> 保健衛生法・環境衛生法の仕組み②	保健衛生法・環境衛生法の仕組みが説明できる。		
10	前期	<u>薬事法(1)</u> 薬事一般に関する法律とその仕組み①	薬事一般に関する法律とその仕組みが説明できる。		
11	前期	<u>薬事法(2)</u> 薬事一般に関する法律とその仕組み②	薬事一般に関する法律とその仕組みが説明できる。		
12	前期	<u>労働法と社会基盤整備(1)</u> 労働法の仕組み①	労働法の仕組みが説明できる。		小林
	前期	<u>労働法と社会基盤整備(2)</u> 労働法の仕組み②	労働法の仕組みが説明できる。		

14	前期	環境法 環境保全の基本法の仕組み	環境保全の基本法の仕組みが説明できる。	茂浩
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		評価: 筆記試験80点、レポート課題20点(評価基準については後日明示する)の合計100点の評価とする。		
準備学習など		<p>1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日45分の予・復習:15回で675分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>		
留意事項		予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。		

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
実習担当教員	看護科 3年次 前期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
周手術期にある成人の対象を理解し、周手術期にある対象の健康を回復する上での看護実践能力を養うことを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像の1. あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。3. 人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。4. 安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。7. 専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術適応となった健康障害、予測される合併症、手術によって変化する機能を理解する。 2. 手術を受ける対象の健康障害の受け止め方を理解する。 3. 安全に手術が受けられるように援助を実施する。 4. 手術後の回復段階に合わせて、自立に向けた援助を実施する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
担当教員	18				
事前学習として、成人看護学概論・成人看護学方法論Ⅱ・Ⅲで学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
実習担当教員	看護科 3年次前期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
リハビリテーションが必要な成人期の対象を理解し、対象の障がいを捉え、自立した生活の再構築を目指す看護の理解と看護実践能力を養うことを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像の1. あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。3. 人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。4. 安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。7. 専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション期にある対象の全体像を説明する。 2. リハビリテーション期にある対象の健康障害を理解する。 3. リハビリテーションが必要な対象の社会復帰に向けた看護を実践する。 4. リハビリテーション期におけるチーム医療の必要性を理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学実習	18				
<p>事前学習として、成人看護学概論・成人看護学Ⅴで学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。</p> <p>各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 通年	2	90	臨地実習	
I. 授業概要					
健康障害のある対象とその家族を理解し、老年期における健康障害の複雑さと健康段階に応じた援助を学ぶことを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像の1. あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。3. 人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。4. 安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。7. 専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体像を理解し、日常生活援助に必要な情報収集をする。 2. 対象の個別性に応じた看護過程を展開する。 3. 保健医療福祉チームとの連携の実際から医療チームアプローチの必要性を理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての1歩を踏み出す実習になります。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学実習	18				
<p>事前学習として、老年看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					

【授業科目】

こども看護学実習
(外来実習)

Child Nursing Practicum

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 通年	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>健康障害が成長・発達段階にあるこどもとその家族に及ぼす影響について学ぶとともに、こどもの健やかな成長・発達の支援や外来看護の機能と役割、及び、特徴を理解し、こどもの安全・安楽な環境と看護実践を学ぶことを目的としている。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつこどもと家族に対する小児科外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. こどもの健康状態が子どもと家族に影響を及ぼすことを理解する。 3. 健康障害とこどもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。 4. 健康障害をもつこどもと家族が安全に診療が受けられるための看護援助を実施する。 5. 健康障害をもつこどもに関わる多職種役割と社会資源の活用方法について理解する。 6. 倫理的に配慮し、こどもの尊厳と権利を尊重する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学18					

事前学習として、こども看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。
各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前 期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>障がいをもつこどもの療育生活を体験し、ありのままの姿を受け止め、障がいをもって生きることを理解し、ひとりの人として尊重した態度で接し、命の大切さを学ぶ。また、支援者である家族への配慮や社会的資源の必要性を学び、障がいをもつこどもの特性に合わせた看護援助を実践することを目的としている。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害をもつこどもの生活環境を理解する。 2. 重症心身障害をもつこどもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。 3. 重症心身障害をもつこどもの全体像を理解する。 4. 重症心身障害をもつこどもの特性に合わせた看護過程の展開に基づいた日常生活援助を実施する。 5. 重症心身障害をもつ子どもと家族に関わる多職種の役割と社会資源の活用方法を理解する。 6. こどもの尊厳を擁護し、倫理的配慮に基づき尊重した態度を身につける。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計50点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					

VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間

精神看護学Ⅰ8

事前学習として、こども看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。

各自の学習が実習で関わる方への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。

【授業科目】

母性看護学実習
(外来実習)

Maternity Nursing Practicum

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 通 年	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
性と生殖に関わる健康に問題を持つ対象の理解および女性生殖器に障がいを持つ対象への看護の必要性を理解することを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
1. 婦人科外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. 婦人科外来に受診する対象を理解する。 3. 婦人科外来における看護を実施する。					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学18					
事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。					

【授業科目】

母性看護学実習
(子育て支援
センター実習)

Maternity Nursing Practicum

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 通 年	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>地域における子育て支援は養育者が子育ての楽しみ方を学んだり、ストレスや悩みを解決する場となっている。その活動の実際を理解することで、地域で生活する母および家族とそのこどもを支援する方法を学ぶことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援センターの概要を理解する。 2. 地域で生活する母及び家族とそのこどもの環境、子育てに関するストレス要因を理解する。 3. 健全な母性を育む保健・福祉、他職種との連携について理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学18					

事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。

各自の学習が実習で関わる方への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 通 年	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進してゆくための看護を学ぶ。周産期の対象理解を深め、必要な知識・技術・態度を学習する。実習を通して生命の尊厳について学習することを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩各期の進行に伴う看護を実施する。 2. 産褥期の看護を実施する。 3. 新生児の正常な経過を観察し、必要な援助を実施する。 4. 倫理的配慮に基づいて行動し、自己の母性看護観を形成する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計50点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学実習 18					
<p>事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護学 3年次 通年	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>精神の疾患・障がいにより日常生活に支障をきたした対象に対して、精神看護学の知識と技術を用い、人権を擁護し、こころの健康の保持増進・回復のための看護を学ぶ。また、対象との関わりから、看護者の感情・思考・言動が対象に及ぼす影響についてを知り、他者理解を深め、患者-看護師関係を学ぶことで今後の看護実践へつなげていくことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院・病棟の特徴と看護の役割を理解する。 2. 精神看護を必要とする対象の全体像を理解する。 3. 看護過程の展開に基づいた、日常生活援助を実施する。 4. 対象への看護援助や関わりを通して、自己の感情や行動の傾向を知り、自己洞察する。 5. 精神看護における保健・医療・福祉のチームのメンバーとの連携と看護師の役割を理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					

詳細については実習要綱を確認する。1・2年次で学習した「精神看護学概論」「精神看護学方法論Ⅰ」「精神看護学方法論Ⅱ」「精神看護学方法論Ⅲ」の知識・技術を統合し、実習を行います。

担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。

Ⅵ. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間

精神看護学Ⅰ8

事前学習として、精神看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。

各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 通年	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>地域で暮らす療養者にとって安心して生活ができる在宅医療・看護の在り方について学ぶ。また、在宅で生活するあらゆる対象を取り巻く環境と家族の役割、社会資源の活用方法の実際について学び、QOLを支援しその人らしく、もてる力を発揮できる関わり方や看護を理解することを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 療養者を取り巻く環境や生活状況を理解する。 在宅で生活する対象の健康生活を支援する保健医療福祉体制や連携協働の実際から、看護の役割を理解する。 在宅で療養する対象を理解する。 在宅で療養する対象の暮らしや生き方を尊重した看護を実施する。 療養者に必要な社会資源の活用、保健・医療・福祉制度を理解する。 対象への倫理的配慮の必要性を理解したうえで、看護を実践する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点の評価とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての一步を踏み出す実習になります。看護学生として責任ある行動を取り、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					

VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間

精神看護学Ⅰ8

事前学習として、在宅看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。
各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。

学科・学年	看護科 3年次
科目名	看護マネジメントと統合看護技術
担当者	厩田 美幸 / 高橋千恵子
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護管理 医学書院 多重課題クリアノート 学研

2

授業概要と目的				
<p>看護ケアの実践や看護サービス提供の仕組みなど、看護マネジメントが看護管理者だけでなく、看護実践者にも必要な知識と技術であることを学ぶ。また個々のマネジメント・他のメンバーとの調整力・連携能力を学び、チームリーダーとしてチームの管理方法を学ぶ。さらにチームで複数感謝を担当するシミュレーション学習を行い、看護技術の統合を図ることを目的とする。 教員は、臨床での看護師経験を活かし授業を行う。</p>				
回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	9	マネジメントとは ・マネジメントの概要を理解する	・「マネジメントとは」を述べる ・ここまでの臨地実習からチームマネジメントについてリフレクションする	高橋
2	10	看護マネジメントとは ・看護管理学の概要を理解する	・PDCAサイクルの考え方を説明する ・看護におけるマネジメントの概要を述べる	
3	14	組織目的達成のマネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり	組織目的達成のマネジメントを説明できる。 看護サービス提供の仕組みづくりを説明できる。	厩田
看護学	18			
4	20	人材マネジメント概要	人材マネジメントの概要が理解できる	高橋
6	22	看護者の基本的責務	・倫理の原則から看護の質の保証について考える ・看護者の基本的責務について述べる	
7	24	統合看護技術演習 複数受け持ちの看護計画を立案する	・複数患者のニーズをふまえたアセスメントし、看護計画の立案ができる	高橋
9	26	統合看護技術演習 複数受け持ち時の看護チームへの連携	・看護チームの一員として必要なチームワークとコミュニケーションスキル、情報の共有を考察する	
10	後期	多重課題シミュレーション	・OSCEのための技術準備をする	
11	後期	多重課題シミュレーション	・看護実践場面でおこる課題について、看護職者として倫理に基づいた行動をする	
12	後期	OSCE実践		
13	後期	多重課題シミュレーション リフレクション	・看護ケアのマネジメントの自己課題と解決方法をリフレクションから明らかにする	

14	後期	目指す看護チームが明確になる	・実習グループの目標達成をするために、 チームの強みと課題を明らかにし、行動計画 を説明する	高橋
	後期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験、課題、OSCEの総合評価		
準備学習など				
留意事項				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	災害看護
担当者	日高 友里
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

3
授業概要と目的

我が国は近年、自然災害が多発し、人々は命や健康を損ない多くの被害を受けた。このような状況下で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職は人々の健康に関わる専門職者として大きな役割を担っている。災害時の看護活動を円滑に行うために必要となる災害医療の基礎知識を理解するとともに、災害サイクルに応じた活動現場に応じた看護活動を理解する。また、被災された方の特性に応じた災害看護の方法、及び被災者の心のケアの必要性を理解する。
日本DMATに所属し災害派遣看護師として経験ある教員がその経験を活かして授業を行う。

8

回 (コマ)	9	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	14	・災害の定義・種類を理解する ・災害時の健康被害を理解する	・災害の定義・種類を説明できる ・災害における健康被害と対応方法を説明できる	日高 友里
看護学	18			
2	20	・災害のサイクルとその特徴を理解する ・災害看護の役割を理解する	・災害サイクルを説明できる ・災害看護の特徴と看護活動の内容を説明できる	
4	22	・トリアージの方法を身につける	・トリアージの方法を説明できる ・START法トリアージを実践できる ・トリアージタグを記載できる	
5	24	・災害急性期・亜急性期における看護を理解する	・災害急性期の看護を説明できる ・災害亜急性期の看護を説明できる	
7	26	・災害静穏期における看護を理解する	・災害静穏期の看護を説明できる	
8	前期	・災害時のこどもに対する看護を理解する	・災害時のこどもの特性を説明できる ・こどもに対する災害看護を説明できる	
9	前期	・災害時の妊婦に対する看護を理解する	・災害時の妊婦の特性を説明できる ・妊婦に対する災害看護を説明できる	
10	前期	・災害時の高齢者に対する看護を理解する	・災害時の高齢者の身体的・精神的特性を説明できる ・高齢者に対する災害看護を説明できる	

11	前期	・災害時の障がい者・慢性疾患患者に対する看護を理解する	・災害時の障がい者・慢性疾患患者の特性を説明できる ・障がい者・慢性疾患患者の災害看護を説明できる	日高友里
12	前期	・災害時の外国人に対する災害を理解する	・外国人に対する災害看護を説明できる	
	前期	・被災者のこころのケアの方法を理解する ・遺族の心のケアの方法を理解する	・被災者のこころのケアを説明できる ・遺族の心のケアを説明できる	
14	前期	・被災救護者のこころのケアの方法を理解する ・救護者のストレスとこころのケアの方法を理解する	・被災救護者のこころのケアを説明できる ・救護者のストレスとこころのケアを説明できる	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法				
準備学習など				
留意事項				

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 後 期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>看護業務を行う看護チームの一員として、看護マネジメントできる基礎的能力と既習した知識・技術をもとに、臨床現場に即した実践能力を養う。また、チームナーシングを通し、リーダーやメンバーの役割とチーム医療の必要性を学ぶことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・病棟の看護管理とチームナーシングの実際を理解する。 2. 複数患者の対象の特徴を理解する。 3. 複数患者に対する看護を優先順位を考え実践する。 4. 倫理的配慮に基づいて行動し、自己の看護観を形成していた。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点の評価とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての1歩を踏み出す実習になります。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
精神看護学18					
<p>事前学習として、今までに学んだ理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					